

## はじめに

---

館家は、本町四丁目で代々農業を営んでおり、大正時代に野々市村長を務めた館惣次郎や陸軍少将を務めた館余惣を輩出した家です。

館家は、明治24年（1891年）の大火で被災した後、鶴来の山方から家を移築しています。表通りに切妻の屋根飾りを見せる農家型の造りとなっており、その佇まいは現在も残されています。

明治24年に大火に遭ったことから、それ以前の資料の残存はわずかですが、明治時代から戦前にかけての野々市に関する資料が多く残されていました。

今回は、館家の土蔵に保管されていた資料のうち、引き札に焦点をあてて展示します。